山梨日日新聞
7/29 水

ビジネスリーダーに聞く

知識産業 山梨を集積地に

ジインズ(笛吹) 広瀬光男社長

新型コロナウイルス感染拡大に伴う生活様式の変化を受け、首都圏から地方への移住が注目される中、ソフトウエア開発などのジインズ(笛吹市境川町三椚)は、首都圏の企業の出先拠点「サテライトオフィス笛吹」の整備を目指している。広瀬光男社長は「リニア中央新幹線開業やテレワークの拡大を追い風に企業誘致を進め、首都圏の企業に新しい働き方のスタイルを提案したい」と意気込む。

―サテライトオフィスを整備しようと考えたきっかけは。

「山梨を知識産業の集積地にすることが自身のライフワークと思っており、長年、サテライトオフィスの構想は持っていた。昨年、病気で入院した際、時間ができて多くの本を読む中、『自分として最後の仕事をしよう』と考えるようになり、具体化に向けて動き出すことを決意した。新型コロナウイルスの拡大で東京一極集中の限界が見えたこともきっかけの一つだ。過去に竜王赤坂ソフトパーク(甲斐市)に6社を誘致した経験を生かし、もう一度、企業誘致に取り組みたい」

―進捗は。

「9日に行政担当者や金融機関、民間企業などを対象に事業構想説明会を開き、良い反応をもらった。今後、サテライトオフィスの設立に関心がある首都圏の企業10社程度に声を掛け、研究会を立ち上げる。研究会メンバーを中心に事業会社を設立し、用地取得、オフィスや居住施設の建設を進める」

―サテライトオフィスのメリットは。

「リニア中央新幹線が開業すれば、東京・品川から笛吹市境川町周辺は甲府到着後の移動も含めて東京から30分圏内になる。30分圏内で地価が安く、豊かな自然があり、温泉やゴルフ場などが楽しめる場所はほかにはない。社員が私生活を充実させながら働く環境として魅力があるはずだ。感染症対策だけでなく、大地震などの災害の可能性も考えると、オフィス機能のバックアップを東京以外に設けることは企業の危機管理の視点からも有用性がある。新型コロナの感染拡大で全国的にテレワークが一気に広がったことも大きな追い風になると考えている」

―自社の業況は。

「自社開発しているIDマネジメントのパッケージソフト『ADAMS』が好評だ。各社、団体でセキュリティー対策が進む中、システムへの社員のアクセス権限などを役職などに応じて簡単に設定できる。後発なのでさまざまな機能がそろっている上、価格が他社製品の7割ほどと安い。官公庁や企業などで多く導入されており、全国2位のシェアまで拡大した。今後はクラウドでの利用も進むだろう。改良を重ね、さらなる販路拡大を図りたい。業務拡大に伴い、新社屋を建設しており、来年3月に完成予定だ。将来的には社員100人規模まで拡大したい」

〈聞き手・渡辺真紗美〉

ひろせ・みつお氏　1952年、塩山市(現甲州市)出身。日川高、日本大生産工学部を卒業後、警察官勤務を経て1977年に県庁入り。87年に退職し、竜王赤坂ソフトパーク設立準備事務所事務局長に就く。1996年にジインズを立ち上げた。68歳。

愛読書　笛吹市の教育委員に任命されたのを機に、近現代史をよく読むようになった。

趣味　近場でのゴルフ

影響を受けた人　陸軍軍人の児玉源太郎。私利私欲ではなく、国のために頑張る心を持つ人格者で、尊敬する。

転換点

1987年、10年務めた県庁を退職し、竜王ソフトパークの設立準備事務所の事務局長となった。周囲からは「辞めるなんて」と驚かれたが、若かったこともあり突き進んだ。企業誘致を進めながら専門学校の設立資金集めにも奔走した。誘致計画が頓挫しかけた時、ハル研究所の当時の社長・池田毅氏との縁で突破口が開けた。切羽詰まってもがむしゃらに動けば何とかなると身をもって知った。